

第3回学校運営協議会議事録

校名	府立東百舌鳥高等学校
校長名	浜田 佳樹

開催日時	令和5年2月7日(火) 15:00 ~ 17:00
開催場所	大阪府立東百舌鳥高等学校 校長室
出席者(委員)	伊井直比呂 会長、梶山尚也 副会長、藺彰久 委員、青木浩子 委員、西村和彦 委員(書面による参加)、時本亜希子 委員(書面による参加)
出席者(学校)	浜田佳樹 校長、夏川照章 教頭、平井啓一 事務長、福島洋平 首席、西川英志 首席、中尾直美 教諭、伊田清悟 教諭
傍聴者	0名
協議資料	令和4年度 学校教育自己診断、令和4年 授業アンケート、令和4年度学校教育目標の自己評価票、令和4年度 学校経営計画及び学校評価、令和5年度 学校経営計画及び学校評価
備考	

議題等(次第順)

議題等(次第順)

- ・校長挨拶 ・学校運営協議会会長挨拶
- ・説明及び協議
 - (1)令和4年度 学校教育自己診断について
 - (2)令和4年度 第2回授業アンケートについて
 - (3)令和4年度 学校教育目標の達成状況について
 - (4)令和4年度 学校評価について
 - (5)令和5年度 学校経営計画について
 - (6)その他

協議内容・承認事項等(意見の概要)

- ・各資料について、説明。その後、協議をおこなった。
- ・(4)、(5)については満場一致で承認された。

●質疑・提言等

- ・(令和5年度学校経営計画の目標について)遅刻の総数に関する目標数が設定されているが、過去と比較して、大幅に改善されている。今後は総数を減少させるよりも、生徒一人一人の生活習慣の指導に重点をおくようにして、数値目標をあえて立てないことも必要と感じる。
- ・(令和5年度学校経営計画の目標について)「働き方改革」について、ストレスチェック等の指標が改善されているが、実際に教員の残業時間を減少させる試みはあるか？
 ⇒1か月の残業時間が80時間を超過する教員の大半の原因はクラブ活動であるため、来年度より実施される土日祝日、長期休業期間中の2校合同のクラブ活動を積極的に検討。ただし、相手校の希望と部活動運用ルールの調整、相手校への移動など懸念は多い
 ⇒学校の電話受付対応時間を8時から17時30分までにして、その他を自動音声で対応。緊急連絡についてはGoogle Formsで対応
 ⇒考査等の採点時間を短縮するため、デジタル採点ソフトの導入を検討
 ※堺市内の中学校でもデジタル採点ソフトの導入をはかっていると情報提供
 ⇒Google Classroomによる会議レジュメ等の資料のペーパーレス化
- ・部活動の加入率が増加しているが、なぜか？
 ⇒新たな試みは特におこなっていない。新型コロナウイルス感染症の状況がおちついてきたからだと考えている。
- ・(学校教育自己診断の保護者からのホームページ評価の減少について)ホームページの更新が滞っているためではないか？
 ⇒ホームページの担当者もこの業務に専任というわけではないため、どうしても更新できないこともある。また、昨年度は新型コロナウイルス感染症による臨時休業の連絡が幾度かあったため、保護者の方が見る機会が多かったことも、今年度減少した原因と考えられる
- ・ホームページの保護者評価は下がっているが、Classilによる連絡による評価は非常に高い。保護者連絡はこちらを活用しているのであるから、学校教育自己診断の保護者アンケートにおいて、ホームページについての質問に意義はあるのか？ホームページの閲覧は誰に向けてのものなのかを吟味すべき
- ・(令和4年度学校教育目標の自己評価票の教務部の報告について)教務内規の見直し、更新とあるが、どういった内容を更新するのか？
 ⇒成績の評価が観点別評価に変わったため、それに対応した内規に更新した

・(令和4年度学校教育目標の自己評価票の教務部の報告について)ひがも塾の大学生ボランティアの募集とはどういったものか？

⇒大阪公立大学の学生を募集して、考査前の放課後や土日に勉強を教えようといったもの。新型コロナウイルス感染症の拡大により、中止していた

・(令和4年度学校教育目標の自己評価票の進路指導部の報告について)英検受験者の減少は生徒定員数の減によるものか？

⇒昨年度よりも1クラス減ではあるが、減少率はそれよりも大きいので、それだけとは言えない。英検受験指導だけでなく、英語に親しむ試みも重要と考えている

・(令和4年度学校教育目標の自己評価票の保健部の報告について)グラウンドを使用できないことを想定した避難訓練を実施したとあるが、どういった内容か？

⇒悪天候時を想定して、避難先を体育館・下足室など複数に分かれておこなった

・(学校教育自己診断の教員アンケートにおいて)ICT機器の授業活用の肯定率が減少したが、なぜか？

⇒今年度に新たに本校に赴任した先生にはまだ、操作が把握できていないことも多いため

・(新型コロナウイルス感染症による制約が縮小していくことについて)マスクの着用を望む生徒と望まない生徒への指導を今後、どのようにするか？

⇒集団活動の中で、いろいろな感性の生徒がおり、お互いに認め合える生徒の育成をしていく

・(新型コロナウイルス感染症による制約が縮小していくことについて)至近距離でのグループ学習や実習、活動等の学校としての方向性は？

⇒卒業式での制限を縮小して、保護者の人数制限を設けない形式とした。他のことも教育庁の指示を待って、随時変更していく。

※堺市立の中学校でも卒業式でのマスク着用を求めない方向になっていると情報提供

●ご意見・ご感想

・探究発表会を含む探究の活動など、教員が負担が増加する場面が多いと感じるが、頑張ってもらいたい。

・2020年度から考えると2022年度は制限がなくなった年度であったが、新型コロナウイルス感染症の拡大で培ったノウハウと今までのノウハウを上手く融合し、どう活かしていくかが重要。ペーパーレス化、デジタル採点等の新しい試みが見られる。重点目標の整理に関して、働き方改革など社会の動きに合わせた整理がなされており、細部においても工夫されているものであった。

・令和5年度は新しいことへの挑戦とコロナ禍で失われてきた行事等を新たに作っていく世代になる。